

MATSUNAGA HEADLINE NEWS

2008 Vol.2

TAKE FREE

2008 Vol.2

発行元：株式会社松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043
 埼玉県さいたま市
 岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL：048-798-1751(代)
 FAX：048-798-0075
 [HPアドレス]http://www.matsunaga.gr.jp

平成20年度 松永建設・大樹会安全大会を開催

“安全第一”の精神を喚起



▲当日は、大樹会会員企業・協力会社、松永建設社員など約620人の参加者が集まり、会場の高が埋め尽くされました

◀「建設業が健全な発展を続け、国民の信頼に応えていくためには、まず労働災害防止が不可欠」と松永大祐社長

参加者620人で無事故・無災害を誓う
 自覚と行動を重ねて労働災害撲滅を!

安全宣言 一、墜落・転落災害をなくそう!
 一、リスクアセスメントを推進し災害をなくそう!
 一、交通ルールを守り事故をなくそう

去る6月18日、市民会館いわつきホールにて「平成20年度 松永建設・大樹会安全大会」が開催されました。26回目を迎える今大会の会場には、松永建設社員をはじめ協力会社で構成される大樹会会員各社など約620人が集結。来賓には、春日部労働基準監督署・町田映司署長、岩槻警察署・熊谷嘉弘交通課長、小山労務管理事務所・小山茂樹所長、建設業労働災害防止協会埼玉支部・白石茂敏事務局長の4氏を招き、大会は会場の熱気に包まれてスタートしました。

まずは開会に先立ち国歌斉唱の後、物語者に向けて1分間の黙祷。

松永功会長の開会宣言では全国安全週間(7/1~7/7)とその準備月間(6/1~6/30)について触れ、「この時期に開催する本大会の意義を認識し、今後の安全衛生活動発展のきっかけにしてほしい」と挨拶し大会の意義を参加者に示しました。

主催者代表の松永大祐社長は「安全第一の原点に立ち返り、安全意識の高揚と労働災害の撲滅を誓い合う場にしたい」と話すとともに「最近の原油高による資材や労務費の高騰などで、多くの会社が合理化やコスト削減に注力せざるを得ない状況のなか、安全対策がおろそかになってはいけない。安全はすべてに優先

することを改めて肝に銘じてほしい」と今大会の主旨を力強く訴えました。

また、竹内光男大樹会理事長(竹内電気(株)社長)は「現場での緊張感を忘れず、災害の予兆に機敏に対応し、安全作業に取り組んでほしい」と呼びかけるとともに、合言葉である「みなさんご安全に」という言葉で挨拶を締めくくりました。

続いて、大樹会理事・荒井信一氏((株)荒井興業社長)の音頭で、労働災害撲滅を誓い合うべく、参加者全員で安全宣言(別掲)を唱和。このあと、安全衛生委員・松永豪氏による安全活動計画と活動報告が行われ、「建設業法に基づき、安全施工推

進に自覚と行動を重ねて災害ゼロを目指す」という松永建設の安全方針と、「みんなで守る作業手順の確立」をはじめとする大樹会重点実施事項・方針を確認、一丸となり安全に努め、推進していく事を誓い合いました。

そして、無事故・無災害に努めた優良協力会社計8社、優良作業所代表計8人、優良職長計8人の安全表彰(下図参照)が行われ、来賓祝辞を閉り第1部が終了。

第2部では、ゲストを迎えた特別講演、旅行券や大型テレビなど豪華賞品が当たる抽選会が行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。



▲安全管理に努めた計8社・16人が安全表彰を受賞。松永社長から表彰状と記念品が手渡されました

安全表彰受賞者

COMMENDATION

【優良協力会社の部】

▽鴻海建設(株) ▽(株)石井基礎工事 ▽(株)麗栄工業 ▽(株)ベスト
 ▽藤井産業(株) ▽平尾化機(株) ▽薄井工業(株) ▽(株)大勇建築工業
【優良作業所の部】
 ▽(仮称)龍プレーキ工業(株) 館林製造所増築工事=須藤敬光 ▽07春日部工業高校体育館耐震補強工事=東正行 ▽(仮称)日本サービス(株)工場新築工事=伊藤賢太 ▽フジパン武蔵工場第一工場屋根カバー工事=豊庭克幸
 ▽京葉道路(改築)幕張パーキングエリア工事=後藤孝雄 ▽東武池田川田

高家橋18下部工事=田中吉朗 ▽岩槻第4地区分区分下水道工事(北建-18-18)=矢作和彦 ▽19区補公下第102号枝線管渠工事他=井端貴広

【優良職長の部】

▽飯島佳明氏(エンドウ・エコレイズ(株)) ▽大塚洋一氏(フソウ開発工業(株))
 ▽阿保重人氏(五陽興業(株)) ▽田中秀樹氏(株)石川エンジニアリング
 ▽小根山勝則氏(湯本内装(株)) ▽波瀬川正道氏(興村組興業(株))
 ▽堀井敬史氏((株)堀井技建) ▽田川博人氏((有)川村飯金工業)

※敬称略

安全への高い意識と真摯な姿勢を
確認できた有意義な大会

労働災害撲滅を実現する上で、もっとも重要なのは「社員ひとりひとりの意識」。小さな心がけ、些細な思いやり、それらを毎日積み重ねることで現場の安全確保につながり、ひいては松永建設の歴史、伝統、文化を築いてきたものと考えております。

人間は進んで内外にコミュニケーションを求め、意思の疎通を図ることで、場の空気を読んだ目配りや気配り、そして心配りが可能となり、またそれは迅速かつ的確な対応につながります。さらに企業にとって社内外における情報の共有は大きな強みであり、そういった意味でも第26回安全大会は社員全員が参加し、ひとりひとりの安全に対する高い意識と真摯な姿勢を確認できた大変有意義な大会だったと感じています。

利益を生む会社は安全管理が徹底されています。今後は松永大祐社長の若



▲小山労働管理事務所 小山茂樹所長

いエネルギーに期待するとともに、時代の動きを見据えながら、松永建設の更なる成長と労働災害の撲滅にまい進していただける事と確信しております。

“安全第一”は当たり前
安全衛生活動のスキルアップが重要

今大会は全国安全週間に前に「危険ゼロ・災害ゼロ」を目指し、安全の再認識と再スタートのいましめとして非常に意義があったものと認識しております。今や、「安全第一」は当たり前の時代。事前にリスクを取り除いた環境作りなど、安全な職場へのハードルは高くなるばかりです。松永建設、大樹会、現場が一体となって安全衛生活動を推進し、活動のさらなるスキルアップにより、完全無災害に向けて努力を続けていかなければなりません。大会では、大樹会から重点実施4項目と安全宣言への取り組みについて確認し各社同時に水平展開を実施していただくなど、様々な取り組みを行いました。

受注なくして利益なし、利益なくして継続なし。今、建設業界は厳しい状況下にあります。今、建設業界は厳しい状況下にあります。今、建設業界は厳しい状況下にあります。今、建設業界は厳しい状況下にあります。



▲竹内光男 大樹会理事長 (竹内電気代表取締役)

設は今後さらなる発展を遂げてゆくものと信じております。

5つの柱でお客様をトータルサポート
創造的で、総合的なソリューションを提供します

地域社会をトータルサポート

松永建設では、高齢化社会が急速に進む中、お年寄りや住み慣れた地域で、安心して暮らせる街づくりを目指し、平成16年6月、安心リビングセンター「うらら岩機」をオープンした。これは、地域社会を大切に考え、社会貢献活動を積極的に展開してきた同社ゆえの事業ともいえる。「本業が厳しい」という理由で、介護ビジネスに参入したわけではない。弊社が長年お世話になっている地域社会への貢献が第一目的です。立ち上げより4年を経て、徐々に本業との相乗効果が生み出されている。「そう語るのは松永大祐社長。

「松永建設グループは、お客様のあらゆるご要望に専門部署が対応している。うらら岩機もその一つであり、グループ力によるトータルサポート、お客様にソフト・ハード両面をご提供できることが我々の強みです。」(同社長)

また、この介護施設の運営により、真のバリアフリーのノウハウを住まいづくりに反映することができるという。「バリアフリーは、段差をつけない、抑利すればよいと考える人が多いでしょう。しかし、高齢者は、その僅かな段差につまずいてしまうのです。段差をつけざるを得ない場合は、

むしろ、視覚的にハッキリと分かるように段差をつけることが必要であり、それが転倒防止につながります。」(同社長)

「うらら岩機は、人に優しい建物をつくるためのノウハウの蓄積。そして、それ以上に地域社会に貢献することを目指して立ち上げました。」という松永大祐社長の言葉に、同社の地域社会に対する意識の高さがうかがえる。

素早いサポートと土地有効活用のご提案

創業以来、地域密着企業として成長を成し遂げてきた同社だが、その背景にあるのが3つのポリシーである「お客様第一主義」「トータルサポート」「建築型企業」。この3つのポリシーのもと、お客様からのあらゆる要望に対し、誠意をもってスピーディーに対応している。

「弊社は、お客様の工場・事業所などに常駐し、ガラス1枚からアノブ交換まで日々のメンテナンスを行う専門部署を設置しています。この小さな積み重ねがお客様から信用をいただき、また日々お客様と接していることにより、お客様のニーズを的確に捉えた様々なご提案が可能となっています。これは地域密着型の我々ならではの対応です」

「土地有効活用としては、アパートやマ



▲松永建設代表取締役社長 松永大祐

ンションから1万坪の工場・物流倉庫に至るまで幅広くお手伝いさせていただいています。平成4年には、グループ会社の松永都市開発において、不動産有効活用「友の会」を立ち上げ、現在では松永建設グループ「友の会」へと一新し100名以上の会員の方にご参加いただくまでに成長しました。友の会では、税制セミナーやよろず相談などの講習会やイベントを開催しており皆様にご好評を得ています。地域密着企業だからこそ、ここまでの規模にすることができたと思っています。一方、工場・事業所などのメンテナンスをさせていただいているお客様の多くは、当エリアへの進出時の用地買収などのお手伝いからお付き合いが始まったものです。弊社は、お客様が抱えている問題を解決し、かつ、建物のライフサイクルコストを踏まえたご提案を心掛けています。」(同社長)

環境を意識した事業展開

建設業界では、汚泥や木材、鉄、コンクリートなどの建設廃材処理が大きな環境問題となっている。松永建設は自社にコンクリート廃材プラントを所有し、建設廃材を再生砕石・再生砂とするリサイクル(再製品化)事業に取り組んでいる。

「建設業に携わるものとしての使命です。環境対応が厳しく求められる時代に、早くから環境を視野に入れた事業を展開している。

「弊社には、環境土木部という部署があります。これは環境を視野に入れて設置した部署です。一定規模以上の土地取引などを行う際には、土壌調査を行う必要がありますが、弊社では専門業者と業務提携し、土壌改良にも取り組んでいます。お客様に対し、トータルサポートできる体制を敷くことにより、お客様に安心をご提供しています。」(同社長)

お客様に安全と安心を提供する。お客様第一主義の同社の姿勢がここでもよく見てとれる。

今後の展望

「弊社の地盤であるさいたま市岩槻エリアは、都心から30キロ圏内であり、企業の物流拠点・生産拠点として恵まれた立地条件にあります。弊社は、これまでも土地活用に重点をおき、積極的に企業誘致に取り組んできましたが、これをさらに推進しようと考えています。現在、埼玉県やさいたま市では企業誘致活動を積極的に進めています。弊社も行政とタイアップし、企業誘致に貢献したいと思っています。」(同社長)

「もう一つは、創業以来培ってきた技術力、ノウハウを駆使した住宅事業(ABホーム)を弊社の主要事業の一つとして軌道にのせることです。地域密着型のゼネコンとして、その技術力を地域住民に身近な「住宅」という形で還元していきたいと考えています。」(同社長)

社会貢献を常に考え、台風や大雨・大雪などによる災害が発生した際には、社員総出でボランティア活動を行う同社。県内を中心に揺るぎない実績を積み上げてきた同社に、今後さらなる発展が期待される。



コチラ
現場です

新たな拠点形成として重要な都市計画事業の一端を担う

越谷レイクタウン地区 造成工事

大規模な開発事業の土台づくりに携わる醍醐味



今年3月に開業したばかりのJR武蔵野線新駅・越谷レイクタウン駅を中心に整備が進められている「越谷レイクタウン」の都市計画事業。大相模調整池(レイク)建設と土地区画整理事業を一体に行う全国でも例を見ない大規模なまちづくり事業です。

約226.5ヘクタール(東京ドーム約50個分)という広大な地区内に、前述の



▲現場責任者の土木部・三浦政則課長。「話題となるような大事業に関わることができてありがたいですね」

新駅や、今秋オープン予定の大型ショッピングセンターをはじめ、業務施設、住宅が集積する計画で、新たな越谷市の拠点として注目されています。

松永建設では、この都市計画事業の中で、整地工事、道路工事、舗装工事、仮設工事などを行っており、現在も進行中。当社としては、単なるインフラ整備に終わらず、地区内への企業誘致や地権者の方の土地の有効活用の提案など、次のステップにつなげたいと考えています。

今、進めているのは土地の地盤沈下をあらかじめ促進させて、宅地として利用するための造成工事。30人ほどの人数で作業にあたっています。

「何もなかった土地を開発していくことに、自分の仕事の実ったと感じます」

現場担当の土木部・三浦政則課長によると、「とにかく面積が広いので、測量ひとつとっても思った以上に時間がかかる」とのこと。また、管理上、地盤沈下の観測業務も義務付けられています。沈下板を設置して、どのくらい沈下しているかを1日15地点以上調べる必要があり、そのために専属で作業に当たらなければなりません。「限られた人数の中、通常の作業以外でも労働力がさかれてしまう点も苦

労のひとつです」と。さらに、現場での変更事項も多く、日々協議を重ねながら進めています。

今後は、通常よりも地盤沈下を促進させるファイバードレイン工法を使用。10月ごろまでに約10万立方メートルの土を動かす予定です。「これから暑い時期に入るので、作業スタッフの熱中症対策も万全にしなければなりません」と安全管理にも気が抜けません。竣工までは奮闘の毎日が続きます。

以前には、みそのウイングシティ(浦和美園駅・埼玉スタジアム2002を核とする都市計画事業)や東埼玉道路(東京外環自動車道・八潮JCTから春日部市・庄和ICを結ぶ都市計画道路。越谷レイク



▲少人数ならではの、抜群のチームワークで業務にあたる現場監督達



▲越谷レイクタウン土地利用計画図(提供:UR都市機構)

タウン地区内でも一部開通済み)の造成工事にも携わった三浦課長。

工事を終えた数か月後や数年後に、担当した現場のその後を見ると、胸にこみあげるものがあるといいます。「何もなかった広大な土地に、やがて建物が立ち、道路が通り、街ができていくのを見ると、大規模な開発事業の土台づくりに自分が参加できた醍醐味を感じます」。

越谷レイクタウンは、この3月の新駅開業に合わせて「まちびらき」が行われましたが、工事中・造成中の部分が多くまだまだ発展途上。これからさまざまな店舗、オフィス、住宅、公共施設などが立ち、どんどん街が形成されていく予定です。水辺空間と都市空間の融合を目指した越谷レイクタウンの今後の発展に期待がかわります。

安全表彰 安全へのこだわりと、実績が評価された安全表彰

この度、国土交通省・関東地方整備局より、平成19年度に完成した工事、完了した業務の中で、特に優れた成績を収めた工事、業務、技術者等へ優良工事等表彰が行われました。

表彰式では、国土交通省・関東地方整備局局長の他、局内幹部職員が出席し、優良工事関係(対象工事件数1,864件)の中から優良工事の65件(58社)と優秀工事技術者の56名、安全管理優良請負者の52社、イメージアップ優良工事の16件、コスト削減優良工事3件、その他対象となる優良業務関係へ関東地方整備局局長より表彰状と記念品が授与され当社も安全管理優良請負者として表彰を受けました。

また、7月12日に開催された、平成20年度日本メックス株式会社「安全衛生大会」におきましても、松永建設グループ・株式会社丸忠産業が安全優良企業として表彰を受けました。

松永建設グループといたしましては、このたびの表彰を受け、今後も更なる安全管理の推進を図って参ります。

◆国土交通省関東地方整備局
安全管理優良請負者 表彰



◇日本メックス株式会社 安全優良会社 表彰



実績
ラインナップ

街に映えるアール状の流線美が周囲からも好評
新井歯科医院新築工事

試行錯誤の上で完成した正面のアール状部分は自信作

幸手市の静かな住宅街に新築された新井歯科医院。歯科医院としては規模が大きく、周囲からも目立つ瀟灑な建物です。



建築部・企画 仲藤 所長

昨年11月に着工し、今年3月に完成しました。

現場を担当したのは建築部の須藤伸吾所長。「大変だったのは、現場の社員が自分ひとりだったこと。最初はとまどう面もありましたが、協力業者の皆さんが協力してくれて、なんとか完成までたどり着きました」と当時の苦勞を振り返ります。

建物の構造が全体的に複雑で、かつ工期も短いなかで、現場スタッフとの打ち合わせを入念にくり返して、細かい部分を詰めていきました。なかでも、一番の難関となったのが正面のアール状の屋根・壁部分。板金の箇所があったり、ALC(軽量気泡コンクリート)貼りの箇所があったりと、さまざまな材料を使っていたためにその取り合い(接合部分)に悩んだとのこと。どうしよう、こうしよう、皆で知恵を絞ったおかげで一番いい納め方ができたといいます。試行錯誤の末に完成したアール状の建物は、デザイン的にも美しく、



▲心を切り抜いた建築された外観の新井歯科医院

近隣の方からも評判なのだとか。

「施主であるお客さまが現場のすぐ近くにお住まいで、毎朝見に来られるので、日々緊張感がありました。ただ、そのおかげでコミュニケーションが取れ、工事の進み具合も確認していただけたのかなと思います」と須藤所長。完成した建物は、窓が広

く取られているので室内もとても明るく、お客さまにも大変気に入っていただけているようです。

「お客様に評価をいただいたのが何よりうれしいですね」と須藤所長も顔をほころばせていました。

賃貸情報プラザ

松永都市開発の新しい“顔”です!



▲賃貸情報プラザ外観

「将来的には、地域一番店を目指したい」

松永建設グループの不動産部門を担う松永都市開発(株)。当初は、土地の有効活用や工業団地への企業誘致などをメインに行っていましたが、6年ほど前から賃貸部門を本格的に始めました。地域のお客様と二人三脚で歩んできたこともあり、当社の賃貸部門は順調に成長を続けました。その結果、昨年6月に岩槻駅近くの松永都市開発の事務所が手狭となっ

たのを機に、当部門だけを独立させて移動。賃貸・仲介を主に扱う「賃貸情報プラザ」を新たに開設することになりました。明るい雰囲気の新事務所は、お客さまにも好評だとか。地域密着型の賃貸管理が功を奏し、今では会社の新機軸として機能しています。

岩槻では、大手による新築賃貸物件が林立し、古いアパートなどには空室が目



▲スタッフは全員で6人。ほとんどが岩槻在住で地元人間!

立つといいます。「それらの空室を埋めるために、何をしたらよいかをオーナーの方に提案していくのが現在直面している我々の仕事」とは賃貸管理部・渋谷貴義部長代理。「風呂の追い炊き機能など設備面での付加価値を新たにつけたり、家賃の見直しなどを適宜に行って、入居率を高める工夫をしています」。そのため、さらに家主さんともコミュニケーションを取る必要があるのだと。

また、「我々は商品がないと、商売が成り立ちません。アパートやマンションなどで空いている物件があれば、ぜひおまか

せいでください。責任を持ってご入居契約を取り付けいたします」とメッセージも。

今後についても「この地域では“松永”というブランドがある程度浸透しています。それを生かして、将来的には東岩槻にも拠点をつくり、地域一番店を目指したい」と意気揚々です。



◀「家主さんとコミュニケーションを図りながら、もっと視野を広げていきたい」と渋谷部長代理

松永都市開発株式会社「賃貸情報プラザ」

〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町1-18-2プレシオ1階
TEL:048(757)0300 FAX:048(757)0630
http://www.matsunaga.gr.jp/mtk/

編集後記



初夏の風物詩「潮干狩り」に木更津まで行った日の出来事です。絶好のシーズンということもあり、老若男女、大勢の人でにぎわっていました。アサリをメインに、時にはハマグリなども獲れ、アサリご飯や酒蒸しなど、どのように料理しようか

と思いをめぐらせ悩ましました。料理しようとするハマグリによく似た貝が混ざっているのに気が付き調べてみると「ホンピノスガイ」という北米原産の貝らしく、船舶のバラスト水に混ざり運ばれて東京湾に定着したとのこと。

食しても問題ないとのこと、ほかの貝と同様においしくいただきましたが、昨今世間で騒がれている外来生物の問題が身近な潮干狩りにまで…、と思った一日でした。

編集人